

月刊

エルダリープレス

～シニアの快適生活を応援する～ シニアライフ版

2016年(平成28年)3月号 第19号

(株)高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
TEL.03-3543-6852(編集部) 発行人 網谷敏数
<http://www.koureisha-jutaku.com>

—Elderly Press Newspaper—



▶久しぶりに家族そろっての旅は、笑顔のCAさんからお見送りをうけました

飛行機、車いすでも快適利用

飛行機に乗る時は、大抵の航空会社が一般の乗客よりも先に搭乗させてくれます。これは車いす利用者が座席に着くまでに少し時間がかかることへの配慮のひとつです。

機内の通路は狭いので、機内用のコンパクトな車いすに乗り換え、さらに座席へと座りかえます。

こうしたケースでは、本人の車いすはチェックインカウンターか飛行機に乗り込む搭乗待合室で預けられることになります。しかし、

他にも、係の方がエレベーターのルートを案内してくれたり、出入国審査場では客室乗務員用の特別ルートを通しててくれたりなど、VIP待遇を受けているような気分になります。

しかし、車いす利用者にはバスや新幹線と同じように飛行機には乗れないと思い込んでいる人が少なくありません。最近は航空会社の方もとても親切になりましたが、それでも身体に自由があつても、より多くの方に空の旅を楽しんでほしいと考えるようになりました。送り出す周囲は心配かも知れませんが車いすはパスポート、「案づるよりも旅は易し」です。

「車いすは、パスポート」と言ったのは、女性としてバリアフリー旅行を先駆けたトラベルデザイナーのおそじまさこさんですが、確かに車いすを使う方と一緒に旅をするごとに面倒な手続きをフリー・パスしてくれることがあります。

例えば飛行機に乗る時は、大

抵の航空会社が一般の乗客よりも先に搭乗させてくれます。これは車いす利用者が座席に着くまでに少し時間がかかることへの配慮のひとつです。

第14回 車いすはパスポート

安全! 快適! **介護旅行**

SPIあ・える俱楽部社長
篠塚恭一



1961年千葉市生まれ。大手旅行会社の添乗員を経て91年(株)SPI設立。ホスピタリティ人材の育成派遣に携わる。95年よりトラベルヘルパーの育成をはじめ、旅のユニバーサルデザイン、介護旅行「あ・える俱楽部」の普及に取り組む。06年NPO法人日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会設立。著書「介護旅行に出かけませんか」(講談社)他。(株)SPI あ・える俱楽部代表取締役社長、NPO日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会理事長